



特別支援教育ほっと通信



「教室環境を整えましょう!」シリーズ
～ユニバーサルデザイン(UD)の視点から～
第4弾「教師は最大の環境」

令和3年7月
西部教育局

教室環境が
乱れていると…

日々の生活が
乱れてくる

子どもたちの
心が
荒れてくる

学習に**集中**
しにくくなる

こうならないためには…

子どもたちにとって

「教師は最大の環境」であることを再認識しましょう。

具体的には…よりよい「言語モデル」、「行動モデル」、「思考モデル」になること!

令和2年10月号の特別支援教育ほっと通信「刺激量の調整」で御紹介した
【生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省)】をお読みいただけましたか?



小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の取組が組織的・体系的に進めることができるよう、
学校・教職員向けの基本書として作成されたもの。

【P. 20の記載に注目しました!】 第1章生徒指導の意義と原理 3 個別指導の方法原理 (3) 指導における留意点
一般的に、コミュニケーションで伝わる内容は、言語的内容は30%、**非言語的内容が70%**

➡ 教員は**言葉だけではなく、言葉と同じメッセージを態度でも伝える**ことが必要!

例えば…

- 廊下を歩くときはゆっくり歩く。
- 児童生徒とすれ違うときは、目を合わせる、声をかける、笑顔を見せる。
- 廊下で児童生徒に声をかけられたら、足を止める、身体を逆向きにしないで話を聴く。
- 職員室などで仕事中に声をかけられたら、ペンを置く、キーボードから手を離す。など

これらは職員同士でも大切なことですね!



➡ 児童生徒との信頼関係を築く上で大切

➡ 子どもたちにとって
よりよいモデルでもある!

生徒指導提要

平成22年3月
文部科学省

